opusdei.org

属人区長の手紙 (2019年11月1日)| 友情について

友情について、フェルナンド・オカリス神父が司牧書簡を発表しました。「自分の務めをおろそかにすることなく、いつも友人とかかわる努力をすべきです」。

2019/11/10

PDF>属人区長の手紙(邦訳)

愛する皆さんへ。イエスが私の子供 たちを守ってくださいますように!

(訳注:翻訳にあたって、「amistad」を文脈に応じて「友情」、「友愛」、「親しさ」と訳し分けています。)

1.前回の総会の結論をまとめて皆さんに初めて届けた長い手紙の中で、次のように書きました。「現在の福音化の状況を見ると、一対一の付き合いを最優先にする必要性はますます強くなってきています。聖ホセマリアは、この使徒職のやり方を福音の中に見い出しました」[1]。

様々な国の多くの人々と出会うなか で、おのずと友情についての考察や

問いが湧き出てきました。聖ホセマ リアは、人間的にもキリスト教的に も大切なこの友情という問題につい て、倦むことなく思い出させてくれ ました。また、彼が実に多くの人々 と友情を培い、生涯に渡って大切に していたという豊富な証言が残って います。私たちがよく知っているよ うに、オプス・デイにおける主要な 使徒職は、友情と親しい語り合いの 使徒職であると強調されていたでの す。このテーマに関して、私たちの パドレの教えのいくつかの面を、こ の手紙で思い出したいと思いまし た。

イエス・キリストの友情

2.完全な人間であるイエス・キリストは人間的な友情を存分に生きておられました。イエスが若い時から、周りの人々とどのように友情を育んでおられたかを福音書に見出すことができます。12歳の時、エルサレム

からの帰途、マリアとヨセフはイエ スが当然、友人や親戚たちと一緒に いるものと思っていました(ルカ 2,44参照)。公生活において、友人 や知人を訪問したり、食事を共にし ながら、彼らの家でお過ごしになる 多くの場面を見ることができます。 ペトロの家において(ルカ4,38参 照)、レビの家において(ルカ5,29 参照)、シモンの家において(ルカ 7,36参照)、ヤイロの家において (ルカ8,41参照)、ザアカイの家に おいて(ルカ19,5)、等々。また、 カナの婚礼に参列する主の姿(ヨハ ネ2.1参照)を、また、人々と礼拝に 与る主を(ヨハネ8,2参照)見ること ができます。さらに、弟子たちとだ け過ごされたこともありました(マ ルコ3.7参照)。

どんな状況も、イエスにとっては友情を築く機会だったのです。主が一人ひとりのために、幾度も立ち止まられる姿を見ることができます。サ

マリアの女性が、主に知られており 理解されていると感じるために、わずかな対話で十分でした。それゆえ、彼女は「もしかしたら、この方がメシアかもしれません」(ヨハエマオの弟子たちは、イエスと共によってよりましたとき、言葉によってならの心を燃え上がらせてくれた友の現存を認めたのでした(ルカ24,32参照)。

しばしば、主は友のためにより多く の時間を割きます。ベタニアの兄で、 を当かることでした。でしたのでもの場合がそうでされたのでは、 親密な日々を過ごかに元気である日々な、 は友情であるではなないなないななででした。 ないないななででしまった。 は、ないないでしょう」 が、深い信頼を生み(いたことが分 のたことが分 かります。とりわけ、辛い時に寄り添ってくださったのでした(ヨハネ11,35参照)。

しかし、主が最も深く私たちに友情 を注ごうと望まれたのは、最後の晩 餐においてでした。高間における親 密さの中で、イエスは使徒たちに、 「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」 (ヨハネ15,15) と仰いました。それ は、彼らを通して私たち皆に向けら れているのです。神は私たちを被造 物としてだけではなく、子どもとし て愛してくださり、キリストにおい て真の友情を注いでくださいます。 神のみ旨に私たちの意志を一致させ ることで、つまり、主がお望みのこ とを実行することによって、この友 情に応えましょう(ヨハネ15,14参 照)。

「『同じことを望み、同じことを嫌う(Idem velle, idem nolle)』一古代の人々は、これが愛の真の意味だ

と考えました。それは、互いに似た ものとなることによって、共通の意 志と考えを抱くようになることにほ かなりません。神と人間の間の愛の 歴史とは、まさしく、神と人間が共 通の思いと感情を抱くことによって ますます共通の意志をもつようにな ることであり、こうして人間の意志 が神のみ旨とますます一致するよう になることです。神のみ旨は、わた しからかけ離れたものでも、おきて によって外部から強制されたもので もなく、わたしの意志となります。 それは、神が『わたしのもっとも内 なるところよりももっと内にいる』 (聖アウグスチヌス『告白』 III, 6, 11)という経験に基づくものです。 このようにして、わたしたちはます ます神に自分をささげ、神はますま すわたしたちの喜びとなります(詩 編73,23-28参照) | [3]。

3.イエス・キリストとの真の友情において自分を知るならば、安心感で

満たされるでしょう。なぜなら、彼 は忠実だからです。「イエスとの友 情は揺るぎないものです。黙ってお られるように見えたとしても、この かたは決してわたしたちを放っては おかれません。わたしたちが必要と するときにはご自分と出会えるよう にしてくださり(エレミヤ29,14参 照)、どこへ行こうともそばにいて くださいます(ヨシュア1,9参照)。 このかたが契約を破棄することは、 絶対にないからです。わたしたちに 対して、ご自分を放っておかないよ う求めておられるのです。『わたし につながっていなさい。わたしもあ なたがたにつながっている』(ヨハ ネ15.4)。たとえわたしたちが離れ ていこうとも、『キリストはつねに 誠実であられる。キリストはご自身 を否むことができないからである (2テモテ2,13〔フランシスコ会

訳〕」[4]。

イエス・キリストのこの友情に応え るとは、彼を愛すること、しかも、 キリスト者の生活にとって魂である 愛をもって、また、私たちの行いの すべてにおのずと現われる愛をもっ て愛することなのです。「豊かな内 的生活が必要です。それは、神との 親しさの確かなしるしであり、霊魂 に携わるすべての務めにとって不可 欠な条件なのです」[5]。使徒職はす べて、霊魂のための働きのすべて は、神との親しさから生まれて来る のです。これこそ、人々のための真 のキリスト教的愛の泉なのです。

「私たちが第一に培い育てなければならない神との親しさを生きてとができることがであるだろう(シラ6,17参照)。まるだろう(シラ6,17参照)。まるだろう(シラ6,17参照)。まるたちをご自身との友情に留また、今も続にしてくださっていることを、道具へののためにもなさることをお望みなのです」[6]。

友情の人間的な価値、キリスト教的 価値

4. 友情は偉大な富を持つ人間的現実です。それは、二人の人間の間の相互の愛の形であり、互いに知り、相互の交わりの上に築かれるものです[7]。それは、「一致と幸せを生み出す愛であり、相手のためにすでもという二つの方向に向の形です。それゆえ、聖書では、「誠実な友は、何ものにも代え難く、(シすばらしい値打ちは計り難い」(シラ6,15)と断言しているのです。

愛徳は人間の愛する能力を超自然的 に高め、したがって、友情をも高め ます。「友愛はもっとも高貴で気高 い人間的感情の一つです。神の恵み がこの感情を清め、造り変えます」 [9]。この感情はしばしば自然に生ま れるものですが、いずれにせよ、付 き合いと時間をかけることで育てて いくことが必要です。「友情というものは、やがて消える一時的な関係ではなく、変わることなく、固く、忠実な、時とともに円熟する関係です。きずなを感じさせるてくれる情緒的結びつきであるとともに、相手の長所を見つけようとさせる寛大な愛でもあります」[10]。

5.神は救いの御業を成し遂げるため に、何度も正真正銘の友情をお使い になりました。旧約聖書は、若きダ ビデとイスラエルの王子であったヨ ナタンの友情を語ります。王子は 持っているものすべてを友と分かち 合うことをためらいませんでした (1サムエル18.4参照)。そして、問 題が起きたときには、若きダビデの すべての良いことを、父サウルに思 い出させたのでした(1サムエル19,4 参照)。ヨナタンは、「ダビデを自 分自身のように愛していた」(1サ ムエル20,17)がゆえに、友を守るた めに、受け継ぐべき王座さえ危険に

さらしました。この誠実な友情に よって、二人の神への忠実は強めら れていきました(1サムエル20,8及び 42参照)。

特に雄弁に語っているのは、初代のキリスト者たちの模範です。私たちのパドレは、彼らが「キリストの聖心で、やさしく強く互いに愛し合ってい」[11]たと指摘されました。相互の愛は、教会の始まりから、イエス・キリストの弟子を識別するしなのです(ヨハネ13,35参照)。

キリスト教の最初の数世紀における 他の模範は、聖バシレオとナジアン ズの聖グレゴリオに見ることがでの ます。若い時代に生まれた二人の 情は、生涯に渡ってかたく結ばれて 情は、生涯に渡ってかたく結ばれて において、二人は一緒に記念日を において、二人はずリオは、 行わたしたち二人が努力したのは徳

をつむことであり、来世を希望して

生活すること」[12]であったと語っています。二人の友情は、神から離れさせるどころか、より一層二人は神へと導かれたのでした。「わたしたちはこのことを目指しながら、生活と行動のすべてを整えました。一方では神の掟の導きに従い、他方では徳への熱意を互いに磨いたのです」[13]。

6.「キリスト者、すなわち神の子に とって、友情と愛徳はひとつであ る。つまりそれは熱を与える神的な 光である | [14]。さらに、聖アウグ スチヌスが主に向けた言葉で言うこ とができるでしょう。「御身が愛徳 によって一つにしてくださらないの であれば、真の友情はありえないで しょう | [15]。他方、愛徳には強さ の度合いがあり、注ぐことのできる 時間に限界があることから、友情と いう現実にもその深さの度合いがあ るといえるでしょう。だから、しば しば、「親友」であると言ったり、

「強い友情」と言ったりするのです。とはいえ、それほど強くなくても真の友情を排除するものではありません。

新千年期の初めに、聖ヨハネ・パウ 口2世は、「兄弟姉妹の喜びや苦し みを共に分かち合うことができるた め、また、その望みを感じ取り、そ の必要にこたえるため、真の深い友 情をささげるため | [16]には、すべ ての人を誠実に愛することを中心に 据えなければ、将来生まれるどんな 使徒職の企画も、「魂のない道具 | になるだろうと仰いました。偉大な カテケージスへの奉仕に向けられて いる私たちの家は、多くの人たちが 誠実な愛に出会い、真の友になるこ とを学ぶ場でなければなりません。

7.キリスト者の友情は誰をも排除しません。大きな心ですべての人に向けて開かれていなければなりません。ファリサイ派の人々は、イエ

キリストは、生きていた場所と時代という社会のしがらみにどった。この点にどの点を与れました。これでも私たちへの模範を与えては書いても私たちへ聖ホセマリられてでいます。「主は小さなったとはがったがはなったがはなったがですべての人たちにからません。聖なる婦人たちにイスラエ

ルの名士たちと、ザアカイのような 税吏たちと、信心深い人々と、サマ リアの女性のような罪人たちと、病 人や健康な人と、心からお愛しに なった貧しい者たちと、律法の専門 家や、イスラエルの信仰よりもお褒 めになった異教徒たちと、年老いた 人々や子どもたちと語り合ったので す。イエスは誰に対してもお言葉を 拒まれませんでした。その言葉で癒 し、慰め、照らしたのでした。人間 的であると同時に神的であり、友情 と語り合いに根差したイエスの使徒 職のやり方について、私はどれほど 黙想し、また、黙想するよう勧めた ことでしょう [18]。

友情の表現

8.理解することは、愛徳の表現として必要なことですが、これを実践するために、とりわけ友情が有益です。「ほんとうの友情があれば、たとえ分かち合ったり、受け入れたり

他者を愛するとは、他者を認題、とは、その問題、その問題、その人がイエたの問題、に生い立ち、その人がいたにはなるで、となるで、その人をあるとが必要なので、となる能力を高いしている。これでは、あることが必要なのです。私たちの目をなるです。私たちの目をなるないです。私たちの目をなるない。私たちの目をなるない。私たちの目をなるない。私たちの目をです。私たちの目をです。私たちの目をできるとは、他者を受けるといるという。というでは、他者を認らない。というでは、そのには、他者を認います。というない。

ての偏見から浄め、一人ひとりに見から浄め、とを学び、相手を見つけることがいるというでは、たちの理想のとが必要が必要が必要が必要があたちの愛情を受けると受けるとの変情を受けるといるといるといるといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっといるはずっという関係も唯一の存在であり、関係もです。

聖アウグスチヌスが指摘しています。「すべての人に対して同じ愛を持たなりません。し人にあって、からとませべてのはあるとは、変は、すべいないない。ではないません。愛は、がない、はないます。であるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとは、主がなるとないます。

ように一人ひとりと付き合うことで す。「人々を創造されるにあたり、 神は同じ人をお造りにはなりませ ん。一人ひとりは唯一無二です。神 が一人ひとりを創造され導かれるよ うに、一人ひとりと接すべきです | [21]。友情とは、相手のために良い ことを探し、それを望むことです。 だから、友情は、友と共に苦しみ、 友のために苦しむことも意味してい るのです。困難にある時には、神は 人々の霊魂において、ご自身のなさ り方、ご自身のリズムで働かれると いう信仰を新たにすることが大きな 助けとなります。

9.その上、友愛には、計り知れない社会的価値があります。家族の中における調和や、より人間の尊厳にかなった社会的環境の創造に寄与します。私たちのパドレはお書きになりました。「神的召命により、あなたがたと同じ人々と、喜びや不快なこと、努力や夢、熱意

や冒険を分かち合いながら、社会の中で暮らしています。地上の無数の道を、あなたがたは努力を注いを注いるとでしょう。なぜなら、私たちの精神が、まさにそのように私たちを動かすからです。すべての人々と関係と、平和と友愛の雰囲気を築くことに貢献するためなのです」[22]。

私たち皆が自ら携えるよう招かれて いるこの友愛の雰囲気は、他の人々 の生活を心地よいものにしようと傾 ける様々な努力の実りです。人々が 受け入れられていると感じ幸せにな るために、温かさ、喜び、忍耐、楽 観、濃やかさを獲得し、共同生活を 気持ちよくするすべての徳を身に着 けることが大切です。「のどの麗し い声は、友人を増やし、舌のさわや かな語りかけは、愛想のよい返事を 増やす | (シラ6.5)。自己の性格を 改善するための戦いは、友情がより

生まれやすくするために不可欠な条件です。

それに引き換え、ある種の自己表現 は、友愛の雰囲気を醸成するための 妨げ、あるいは難しくする要因にな り得ます。たとえば、自分の意見を 述べる際にあまりにも断定的にな る、個人的な意見が決定事項である かのように見せる、他の人の話に積 極的に興味を示さない、など、これ らは自己に閉じこもる態度と言える でしょう。時には、このような振る 舞いは、意見とそうでないことを区 別する能力の不足であったり、答え が一つではない事柄を相対化するこ とを難しくします。

10.他者に対するキリスト教的な配慮は、まさにキリストとの一致から、そして、キリストが私たちをお招きになった使命に対する一致から生まれます。「私たちは大勢のために存在します。決して閉じこもることな

く、大勢の人々に向いて生きています。私たちの主イエス・キリストのあの言葉を心に刻んでいます。『群衆がかわいそうだ。もう三日もわたしと一緒にいるのに、食べ物がない』(マルコ8,2)」[23]。

斐のある道、つまりキリスト教的な道を歩むようにするには、神との忠実な友情を前提とし基礎として、人々との忠実な友情に〈生き〉なければならない」[24]。

誠実と友情

11.「真の友情には、二面性などあり 得ないでしょう。『vir duplex animo inconstans est in omnibus viis suis (ヤコブ1,8); 二心のある 人は、生き方全体に安定を欠きま す』。友情が正直で誠実であるべき なら、放棄、公正を要求するもので あり、また、互いの好意の交換、高 貴で適切な奉仕の交換を要求するも のです。超自然的賢明に鑑みて、相 手のことを寛大に思い、個人的犠牲 を捧げる度合いに応じて、友情は強 く誠実になるのです」[25]。友情は お互いのものです。双方向の誠実な 交流であり、互いに学び合うために それぞれの経験を伝え合うもので す。

見失った羊を見つけた羊飼い (ルカ15,6参照) のように、また、失くしたドラクメ銀貨を見つけた女 (ルカ15,9参照) のように、友は喜びを分かち合うものです。さらに、夢や計画を、また、悲しみも分かち合いま

す。友情は、援助への心構えに特に表われます。百人隊長であった友人の部下の癒しをイエスに願い出た男に、その姿を見ることができます(ルカ7,6参照)。もっとも偉大な友情は、何よりもイエス・キリストの友情という偉大な愛におのずと倣うようになります。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ15,13)。

12.慎重さや内気によって、望んでい た愛情をすべて示すことができない ことも時には起こるでしょう。この 障害を克服し、臆病心を消すこと は、神が友人たちの上に愛を注いで くださる素晴らしいチャンスとなり 得るでしょう。「真摯な友情はお互 いを誠実な愛情で結びつけます。そ れは、自由と相互のプライバシーを 真に擁護することです」[26]。この 意味において、聖トマス・アクィナ スは、真の友情には、「何らかの相 互的な愛し返しが必要とされる。な

ぜなら、友は友にとって友であるから」[27]と述べ、外的に表わされるべきであると記しています。

また同時に、真の友情を捧げると は、危険をも受け入れる心構えを意 味しています。その危険とは、注い だ愛に見返りがないことも含んでい ます。主は地上の生涯において、こ れを経験されました。あの金持ちの 若者は別の道を選びました(マルコ 10.22参照)。オリーブ山を下ってお られた時、心を頑なにしているエル サレムを思い涙を流されました(ル カ19.41参照)。遅かれ早かれ現われ るこのような経験に対しては、イエ スが一人ひとりに対してなさった同 じ方法で、危険に対する恐れに打ち 勝たなければなりません。つまり、 先には真の友情という偉大な善が生 まれることを見据えて、傷つくこと を受け入れ、何かが変わることを期 待せずに最初の歩を継続することで す。

13.豊かな友情を育むために適した環 境を築くためには、家庭生活や社会 牛活において各々のイニシャティブ を促進するだけでなく、一人ひとり が自然に行動できる雰囲気を作るこ とが必要です。この二つの特徴 一自 然さとイニシャティブー は、勝手に 生まれて来るものではありません。 むしろ、それらを推進し、人々が自 らをあるがままに表わすことができ るように励ますことが必要です。こ のような態度は、確かに多様化を引 き起こすことでしょう。「この多様 性を厄介に思うかもしれませんが、 愛され育まれるべきものです。自由 を愛する人は、様々な分野における 他の人々の考え方や振る舞い方に肯 定的で愛すべき面を見出すことがで きます | [28]。振舞いや考え方の異 なる人を尊重することは、内的自由 (心の自由)と視野の広さを示す行 為であり、これも、真の友情の二つ の側面なのです。

他方、愛の表現に違いがあるよう に、友情も一義的な現実ではありま せん。自己のプライバシーをすべて の友人に等しく教えるわけではあり ません。たとえば、夫婦間の友愛、 親子の友愛(聖ホセマリアは熱心に この友愛を励ましていました)、兄 弟愛、同僚との友情などは、同質の ものではありません。 これらすべて の友愛には、それぞれの関係に固有 で、内的に共有される空間というも のがあることでしょう。プライバ シーの表現におけるこの相違を尊重 することは、誠実さの不足でも、友 愛の深さの不足でもありません。む しろその反対で、普通、この相違 は、それぞれの友愛が持つ真の本性 を擁護するための条件であると言え ます。

友情と兄弟愛

14.福者アルバロ・デル・ポルティー リョはお書きになりました。「神を 愛する人にとって、子としての身分 と友情とは分かつことのできない、 実であります」[29]。類比的に、 発愛と友愛は、緊密な関係にありま す。共通の親の子という土台による だけの兄弟姉妹の関係は、相互の だけの兄弟姉妹の関係は、相互の関 心、理解、交流、濃やかな奉仕、 的援助などを伴う兄弟同士の情愛に よって、兄弟愛となっていきます。

この意味において、オプス・デイへ の共通の召命に根差した兄弟関係 も、友愛として表現されることを要 求します。この友愛は、他者のため に望む善がその人の幸せ、忠実、聖 性であるときに、成熟の域に達する のです。同時に、この友愛は、限定 的・排他的な意味での「特定の人」 だけに向かうのではなく、他の人々 に常に開かれているのです。もっと も、時間と空間の限界により、すべ ての人に対して同じ強さで交わり付 き合うことはできませんが。

「オプス・デイの特徴である絶妙な々 愛徳によって、自分自身と他のに が聖性を生き、聖性を望むよ力の が聖性を生き、聖性を望むしてプートランプーがに あっドないです。それは、カードはかでようでは カード立つことができませんがことがで はいに支え合うなら城を建てるようではいに できるのです」 [30]。これようでは できるのでする愛そのもの がでする愛そのものです。

15.同じ使命を持つ者にとって、友愛は助けとなり、絶え間ない刺激とります。また、少なくとも通常、といります。場に留保されている神との関係という個人的生活の側面があった。計画、心配事や夢を分かちらいます。夫婦、親子、そして一般的ます。夫婦、親子、そして一般に、親友同士の間の友愛においても同じことは起こります。

人々の生活を心地よいものにするた めに尽力することは、日々の生活の 一部であり、喜ばしい努力です。こ の点において、常識と超自然的感覚 をもって振る舞うなら、やり過ぎる ことはないだろうと思います。むし ろ、それは聖性への道の根本的な事 柄なのです。 | 幾度も繰り返すこと を厭いません。すべての人は愛情を 必要としているのです。オプス・デ イにおいてもそれを必要としていま す。感傷的になることなく、いつも 兄弟に対して愛情を強めることがで きるよう努力してください。私の子 どものどんなことも、本当に、自分 のことになるべきなのです | [31]。 私たちのパドレと生活を共にした 人々が特に思い出すのが愛情につい てです。愛情によって、子どもたち 一人ひとりのために最良のことを追 求すると同時に、一人ひとりの自由 を深く愛するよう励ましておられた のです。

16.兄弟間の愛情は、それは愛徳でも ありますが、一方で、兄弟たちをキ リストの眼差しで見るようにしてく れます。そして、常に新たな発見が あるのです。また、他方では、兄弟 たちの向上、兄弟たちの聖性を望む ように促してくれます。聖ホセマリ アは私たちを励まして仰いました。 「常に大きな心を持つようにしてく ださい。それは、神を愛し、人々を 愛するためです。私は主に、御身の ように大きな心を与えてください と、幾度も願っています。何よりも まず、主によってもっと満たしてい ただきたいからです。そして、すべ ての人を愛したいからです。決して 不平を言わず、他の人の欠点を理解 し弁解を見つけるのです。なぜな ら、神がどれほど私について忍耐し てくだっているかを忘れることがで きないからです。真の愛情であるこ の理解は、必要な時には、兄弟的説 諭においても表わされます。なぜな ら、これは周りの人々を助けるため

の、まったく超自然的手段であるからです」[32]。兄弟的説諭は愛情から生まれます。人々の更なる幸わせへの望みの表われなのです。ときには、その実践が辛く感じることもありますが、それゆえに、受けた説諭に感謝するのです。

17.個人的幸わせは、獲得した成功に よるのではなく、受けた愛と与えた 愛にかかっているのです。兄弟から 受ける愛は、私たちが戦い続けるた めに必要な安心感を与えてくれま す。「愛と平和の麗しい戦いを続け るために: in hoc pulcherrimo caritatis bello! (この麗しい愛の戦 いのために!)。それは、言語、国 籍、社会的身分の差別なしにすべて の人にキリストの愛をもたらすこと なのです」[33]。私たちのパドレ は、あの聖書の言葉をどれほど好ん でおられたことでしょう。「Frater qui adiuvatur a fratre quasi civitas firma: 兄弟によって支えられる兄弟

は、堅固な城塞のようである」(ブルガタ:格言18,19)。

ドン・ハビエルは私たちと共にされた最後の頃の団欒の中で、しばしば繰り返して、「愛し合ってください!」と仰っていました。それは、常にそうされていように、私たちのパドレの望みをこだまさせておられたのです。「使徒聖ヨハネは『互いに愛し合え』という新しい掟

(mandatum novum)を何と強調して教えたことか。芝居がかったことをするつもりはないが、私は自分の心に応じ、ひざまずの叫びに応じ、ひずまの愛に応じ、在方にではないのではではない。互いに手を貸し合いにあいたちに変し合いなけい。というわけ深いにあし合いを支援で助け合わねばならないである」[34]。

友情と親しい語り合いの使徒職

18.オプス・デイの初めの頃から、聖ホセマリアは、私たちが福音をこの世界に告げ知らせるように神がえることを、具体的に教えをであることを、具体的に教のに教える展人た。「あなたがたは、使徒職の人のはおい言葉によりません。を神に近づけなければなりません。を神に近づけなければなりません。キリスト教的に問題に迫ることを持たが名にいいる。で生きるよう教える親切な会話、友情は職を通して行うのです」[35]。

愛徳がその人間的次元を超自然的に 高めるように、真の友情も、それれ自 体、価値あるものです。それは、の 会生活において便益を得るたれるのと 会生活におりません。もしまり 利益を得ることもあり得るでしまり (また、不利益を被るこれがしまり るでしょう)。私たちのパと友情を培うよう私たちを 友情には、本質的な価値があります。なぜなら、他者に対してす。でするからです。でするからですを有るが互いに光を与えいにおいて互いにおいて互が合い、様々ないです。対話によいですがあることをするが喜んでいることをするであることをするである。神は私たちが喜んでいることを

お望みですから、その対話において 楽しい時を過ごすことができるので す」[37]

友情がこのように正直で誠実であれ ば、手段として利用されるようなこ とはないでしょう。友は、自己の人 生において経験した善を、素直な気 持ちから相手に伝えたいのです。普 通、自分でも意識せずに、模範、喜 び、多くの些細な動作で示す奉仕へ の望みを通して、そうしていること でしょう。しかしながら、「あかし は、語らずに秘しておくから価値が あるのではありません。なぜイエス について語らないのですか。このか たがわたしたちに生きる力を与えて くださることを、このかたと語らう のはすばらしいことだと、そのこと ばを黙想するのはよいことなのだ と、どうしてほかの人に伝えないの ですか」[38]。こうして、まさに真 の友情の実りである濃やかで自由へ の尊重に満ちた個人的な親しい語り

合いにおいて、友情は自然に表われるものです。

19.親しい関係にある友人同士は、多 くの時間を共に過ごすことは自然な ことでしょう。散歩でもしながら話 し合ったり、テーブルをはさんで語 り合ったり、スポーツをしたり、共 通の趣味を楽しんだり、ハイキング にでかけたり、等々。ようするに、 付き合うため、信頼を築くために、 友情は時間を必要とするのです。信 頼がなければ友情はあり得ません。 「私の言う〈友情の使徒職〉とは、 〈個人的で〉、犠牲を惜しまぬ、誠 実な、つまり一対一の、心から心へ の友情のことである | [39]。 友情が 本物であるならば、また、他者を心 配する心が誠実で祈りに満ちたもの であるならば、共に過ごす時間はす べて使徒職なのです。すべては友情 であり、すべては使徒職なのです。 区別することができないのです。

「したがって、友情は、人間的にだって、友情は、人間的になく神的にも、極めて重初の最初のようです。オプス・ことを入して、なが言っなたの友人を大きなない。故ととと、となってなしとなってなり、表情を実現してはない。ないではあり、友情をではない。ないではないではないではないではないではないではないではないではないではないです。

20.友情が生まれることは、思いがけないたまものによく似ています。ことはいます。これの表にいるでは、悪いが必要では、悪いが必要ではない。身近にはいるが必要です。身近に時間がある。からないではないでは、これがいにはいるでは、これがいにはいるでは、これがいにはいるでは、これがいる。ことです。イエス・キリスには、大きには、ことです。イエス・キリス

トのようになるべきです。キリストは、「すべての人と話す心構えをお持ちでした。ピラトのように真理を知ろうとしない人とさえもです」 [41]。

福音宣教のための正しい方法はたく さんあります。オプス・デイにおい ては、主要な使徒職は常に友情によ るものです。私たちのパドレがその ように教えてくださいました。「私 の心の子どもたちよ、はっきりとい うことができます。オプス・デイの 働きの大きな実りは、そのメンバー たちが模範と誠実な友情の使徒職に よって、仕事の同僚たちの間で個人 的に獲得する実りです。大学におい ても、工場においても、事務所にお いても、鉱山においても、農地にお いても」[42]。私たちに委ねられて いる務めをおろそかにすることな く、いつも友人たちを大切にするこ とを学ばなければなりません。

21.その上、多くの場合、友情による 付き合いは、センターで行われる共 同の使徒職や、種々の使徒職の活動 によって強められるでしょう。「あ なたがたの誰かとの間に生まれた友 情は広がっていくものです。一方で は愛情と親しみによって、またオプ ス・デイの家にしばしば足を運ぶよ うになることで、友情は深まりま す。センターに通い始めると、そこ を自分の家のように考えるよう教え られます。こうしてその人は友情を 深めていきますが、さらに、私たち の家で知り合う他の人たちとの友情 へとつながっていきます| [43]。

22.この友情の使徒職の中には、信仰を共ににしない人々との、信仰への使徒職(el apostolado ad fidem)も含まれます。「子どもたちよ、信仰、堅固な信仰、生きた信仰、愛によって行動する信仰が必要です:veritatem facientes in caritate (エフェソ4,15参照)。この精神を、離

れた兄弟たち、キリスト者でない 人々との付き合いにおいて持ち続け てください。すべての人に愛を、すべての人に愛徳を、すべての共ちましょう。私たちの共りの 情を持ちましんの誰もが、自分とが 使徒職に与る人の不快に思うでない ないように、その人が望むので話す れば、私たちの信仰について話す とがありませんように」[44]。

* * *

23. この紙面を通して、私たち皆が、慰めと喜びを与える神のなるを与える神のなるを情を必要としているなどに思い出した。「神は人間をおき他のようにはいるとに力が、であた合わない。喜びをみんなられるとになるとになるとになるのです。悲しなるのです。悲しなるというになるのです。悲しながいました。

を侵す時には、自分の周りに静けさ を求め、他の人々が自分を理解し そっとにすることになる。子どもたちもとにするのです。こことを生といること、人は誰でもしていること、人を生というしています。一次を実現し、要を実現し、要を実現し、要を実現し、要を実現して、大切なものですがある。したがって、極めて大切なものにも、です」[45]。

1930年代、オプス・デイに近づいた最初の若者たちは、私たちのパドレに真の友愛を見い出したのです。それが、彼らを引きつけた第一の理常でした。また、それがゆえに、離れるではなかったのです。友情は高いたさせ、苦しい時には慰めをえます。キリスト者の友情は、側にイエス・キリストとの関係ですが一を

望みます。聖ホセマリアのように、 私たちも願いましょう。「イエスお恵いましょう。「心をするなたの聖心に見合うが道でおよってが抱いてい」「46」。これが道でおり、イエスが抱いておりに入れたりに思いたわれたりますることがあるという。 をはいてももたらするでしょう。

心から皆さんを祝福します

あなたがたのパドレ

ローマ、2019年11月1日。諸聖人の 祭日

Copyright © Prelatura Sanctæ Crucis et Operis Dei

(許可なく無断転載及び複製等の行 為はご遠慮ください)

- [1] 手紙、2017年2月14日、n. 9。
- [2] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 10。
- [3] ベネディクト16世、回勅『神は 愛』、2005年12月25日、n. 17。
- [4] フランシスコ、使徒的勧告『キリストは生きている』、2019年3月25日、n. 154。
- [5] 聖ホセマリア、手紙、1943年5月31日、n. 8。
- [6] 聖ホセマリア、手紙、1940年3月 11日、n. 70。
- [7] 参照、聖トマス・アクィナス、 『神学大全』、II-II, q. 23, a. 1, c。
- [8] 聖ヨハネ・パウロ2世、演説、 1981年2月18日。

- [9] ベネディクト16世、一般謁見で の演説、2010年9月15日。
- [10] フランシスコ、使徒的勧告『キリストは生きている』、n. 152。
- [11] 聖ホセマリア、『神の朋友』、 n. 225。
- [12] ナジアンズの聖グレゴリオ、『説教』、43。
- [13] 同上。
- [14] 聖ホセマリア、『鍛』、565。
- [15] 聖アウグスチヌス、『告白』、4,7。
- [16] 聖ヨハネ・パウロ2世、使徒的書簡『新千年期の初めに』、2001年1月6日、n. 43。
- [17] 聖ホセマリア、手紙、1951年1 月9日、n. 30。

- [18] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 10。
- [19] 『拓』746。『道』、463参照。
- [20] 聖アウグスチヌス、『教えの手 ほどき』、15,23。
- [21] 聖ホセマリア、手紙、1956年8 月8日、n. 38。
- [22] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 2。
- [23] 聖ホセマリア、手紙、1954年5 月31日、n. 23。
- [24] 聖ホセマリア、『鍛』、n. 943。
- [25] 聖ホセマリア、手紙、1940年3 月11日、n. 71。
- [26] 司牧書簡、2018年1月9日、n. 14。

- [27] 聖トマス・アクィナス、『神学 大全』、II-II, q.23, a.1, c。
- [28] 司牧書簡、2018年1月9日、n. 13。
- [29] 福者アルバロ、『神の朋友』の 「上梓にあたって」より。
- [30] 聖ホセマリア、手紙、1957年9 月29日、n. 76。
- [31] 聖ホセマリアの言葉。福者アルバロ、『家族の手紙』、I, n. 115に引用。
- [32] 聖ホセマリア、家族の集いでの 記録、1972年10月。
- [33] 聖ホセマリア。説教での記録、 1964年2月29日。.
- [34] 聖ホセマリア、『鍛』、n. 454。

- [35] 聖ホセマリア、手紙、1930年3 月24日、n. 11。
- [36] 聖ホセマリア、手紙、1940年3 月11日、n. 54。
- [37] 司牧書簡、2018年1月9日、n. 14。
- [38] フランシスコ、使徒的勧告『キリストは生きている』、n. 176。
- [39] 聖ホセマリア、『拓』、n. 191。
- [40] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 16。
- [41] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 12。
- [42] 聖ホセマリア、手紙、1940年3 月11日、n. 55。
- [43] 聖ホセマリア、手紙、1942年10 月24日、n. 18。

[44] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 62。

[45] 聖ホセマリア、手紙、1965年10 月24日、n. 16。

[46] 聖ホセマリア、『拓』、n. 813 参照。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkucho-tegami-2019-11/(2025/12/13)